

読解力を育む指導の研究 ～学び合える生徒の育成を通して～

能美市立根上中学校

1 事例の概要

本校では、平成18・19年度に石川県読解力向上推進事業研究校の指定を受け、「読解力を育む指導の研究～学び合える生徒の育成～」をテーマとして、研究実践を行ってきた。PISA型読解力は、学習指導要領の目的を具現化することで達成することができる力であると捉え、確かな学力の向上を図る取り組みの中で、各教科の実践を通して実現を目指してきた。社会科においても、教科としてつきたい力との関連において、読解力をどう捉えるかを分析する中で、実践を行ってきた。

A-1 学校研究の概要

A-2 研究の構想図

A-3 社会科の取り組み

2 実践内容

(1) 指導上の工夫点（視点）

① 読解力の観点

社会科の読解力は、多様な資料を適切に活用することによって身に付くと考えた。適切な資料を選択し、その資料を根拠として自分の意見を組み立て、発表力や文章表現力につなげることができるようにした。

② 協同学習の観点

授業においては、少人数グループ(3～5人)を作り、話し合いの機会を多く設けた。グループで、司会者や記録者や準備係を設け、役割を持って活動できるようにした。グループの中心にはホワイトボードを置き、グループの全員が課題意識を持って話し合いに参加できるようにした。授業では、最初、個人で考えを持つ「自己解決の場」を設定し、その上で、少人数で意見を交換する「学び合いの場」を設定した。

③ 学習課題の観点

多様な考えを引き出し、課題解決をより効果的に進めるためにも、多面的・多角的に考えることのできる資料を準備し、提示方法を工夫した。

(2) 活動例

※ 学習単元：3年公民的分野、第2部 第4章 納税者として国の経済を考えよう。

「社会保障と私たちの生活」(帝国書院)

少子高齢社会を迎える日本にとって、介護保険制度を通してより望ましい社会保険制度をどのように充実させていくことができるか考える。

B-1 ワークシート

B-2 学習のてびき

3 指導の実際



C-1 指導案

C-2 ワークシートの実際

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 生徒の興味・関心のある資料を選び、活用することにより、発想力が高まることがわかった。
- ② 学習課題の解決のために、協同学習を取り入れることで、一人一人の考えの良さを共有し、自分と異なる考えを積極的に聞く態度が育ってきた。

(2) 課題

- ① 資料選択を教師が行い、提示していることが多いので、生徒が主体的に調べる場を設定し、資料を活用する力を高めていく必要がある。
- ② グループ学習を積極的に取り入れて、生徒同士で主体的に思考力・判断力・表現力を高め合いながら、集団作りを行っていくことが大切である。
- ③ 社会科の読解力は、問題解決的な学習を展開し、生徒が課題を追究していく中で身につくことがわかったので、日常の学習が一方的な知識重視の授業にならないよう工夫することが大切である。
- ④ 自己評価力を高める工夫が不十分であったために、指導と評価の一体化を行ったり、学習に対する達成感を感じさせることが十分にできなかった。今後、ねらいを明確にした自己評価カードを工夫して継続的に取り入れていくことが大切である。

D-1 学校研究のまとめ

D-2 学校研究の成果と課題